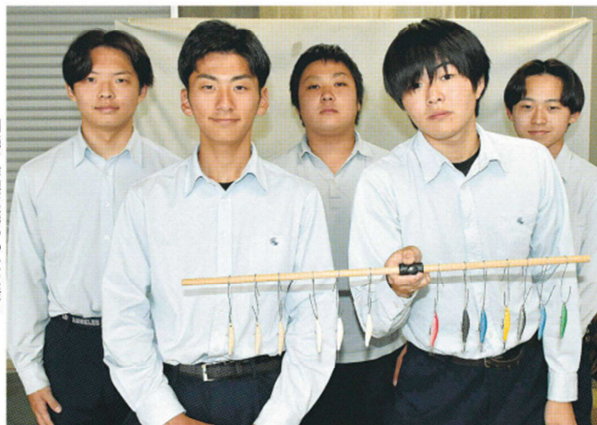


生分解性プラでルアー

「海の環境美化貢献したい」

海洋プラスチックごみによる環境汚染を防ぐと、いわき市の小名浜海星海洋工学科の生徒は、生分解性プラスチックを素材としたルアーを開発、作製した。

小名浜海星高生、開発・作製



開発、作製に携わった生徒ら

携わったのはいずれも3年の鈴木陸斗さんと鈴木大智さん、三瓶陸さん、遠藤蒼依さん、緑川大也さん。5人は「生分解性ポリマーPHBH」と呼ばれる素材を用い、3Dプリンターな

成功した。生徒らは試し釣りも行い、通常のルアーと同様に問題なく使用できたという。PHBHは水や土壌に触れると微生物によって分子レベルまで分解が促進されるため、環境負荷の低減に貢献する素材とされる。従来のプラスチックに比べ、分解時間に雲泥の差があるという。PHBHはカネカ（東京都）から提供された。作製ではルアーの型を作る工程で最も苦慮し、素材をかたどる器具に流し込むスピードやタイミングに多くの神経を注いだ。リーダーの鈴木陸斗さんは「苦労は多かったが、納得するルアーを作ることができた。これからも海の環境美化に貢献していきたい」と話す。



生分解性プラスチックを素材としたルアー

▲ 6月26日 福島民友新聞掲載

生分解性プラでルアーを作製したのはどこの何という人たちですか？

彼らはどのようにしてルアーを開発しましたか。

彼らのこのような取り組みについてどう思いましたか。考えをまとめてみましょう。